

全段連 第四次環境自主行動計画（温暖化対策）

2021年12月7日

全国段ボール工業組合連合会

全国段ボール工業組合連合会は、地球温暖化への対応として2017年度～2020年度を計画期間とした第三次環境自主行動計画に引き続き、次の第四次環境自主行動計画を設定し、段ボール工場におけるCO₂排出量の削減に取り組む。

<目標>

CO₂総排出量を2006年度～2008年度の3年間平均に対し、
2025年度で23%、2030年度で30%削減*する。

※2030年度の目標値は2025年度にレビューを行う

<計画数値>

		基準年度	参考実績		目標			
			2006～2008 年度平均	2020年度	2025年度		2030年度	
				基準年度比		基準年度比		基準年度比
貼合生産量	百万m ² /年	9,352	10,132	108.3%	10,132	108.3%	10,132	108.3%
CO ₂ 総排出量	t-CO ₂ /年	594,430	499,505	84.0%	459,892	77%	417,066	70%
CO ₂ 削減率	%	—		16%		23%		30%
CO ₂ 原単位	kg-CO ₂ /千m ²	63.56	49.30	77.6%	45.39	71.4%	41.16	64.8%
原単位削減率	%		—	22.4%		28.6%		35.2%

- ・自主行動計画参加社数：57社
- ・全国段ボール生産量に対するカバー率：71.1%（2020年度）
- ・CO₂原単位はCO₂総排出量を貼合生産量で割った値

<計画について>

段ボールの業界生産量は新型コロナウイルス感染症拡大前の10年間で約13%拡大し、2020年は3%弱のマイナスとなったものの、2021年は生活様式の変化等もあり、これを上回るペースで伸長しており、今後も生産量の拡大が見込まれる。

このような中で、全国段ボール工業組合連合会は、政府が掲げる温室効果ガスの2030年度46%削減計画における産業部門の削減率を念頭に、生産量を2020年度並みとした上で、組合員企業が自らの努力で達成の可能性がある目標値を設定した。

段ボールは再生可能な循環資源として物流を支えてきた。組合員各社は、製造時におけるCO₂削減は勿論のこと、段ボールが環境にやさしい素材であることをふまえ、プラスチックの代替としての緩衝材や、耐水、保冷、鮮度保持、防錆、防虫、静電気防止等の機能性段ボールを活用することで他素材からの転換を今後も積極的に進めていく。

<参加企業リスト>

(社名 50 音順)

浅野段ボール(株) 旭紙業(株) (株)朝日段ボール 池下紙業(株) (株)エーワンパッケージ エスパックス(株)
恵那ダンボール(株) 大阪紙器工業(株) 王子コンテナ(株) オカジ紙業(株) 鎌田段ボール工業(株)
関西パック(株) 神崎紙器工業(株) (株)キョードー キンキダンボール(株) 協同紙工(株) 協和紙工(株)
協和ダンボール(株) 久門紙器工業(株) (株)クラウン・パッケージ 五洋パッケージ(株) ザ・パック(株)
三協段ボール(株) (株)サンコー (株)三興段ボール セツカートン(株) (株)千成工業所 太榮(株)
ダイナパック(株) 大陽紙業(株) (株)タカオカ 樽谷包装産業(株) 大王パッケージ(株) 大日本パックス京都(株)
中央紙器工業(株) 千代田明和ダンボール(株) 東海紙器(株) (株)トーシンパッケージ (株)トーモク
東北旭紙業(株) 日段(株) 日東紙器工業(株) 日本紙工業(株) 日本紙器(株) 日本青果包装(株) ヒラダン(株)
広島段ボール(株) (株)フジダン 北陸紙器(株) 三笠紙工業(株) ムサシ王子コンテナ(株)
森紙業(株)(関連グループ企業含む) 山下印刷紙器(株) 山田ダンボール(株) 大和紙器 (株) レンゴー(株)
和歌山王子コンテナ(株)